

# 医療相談室年間報告 (昭和54年1月～昭和54年12月)

足利量子

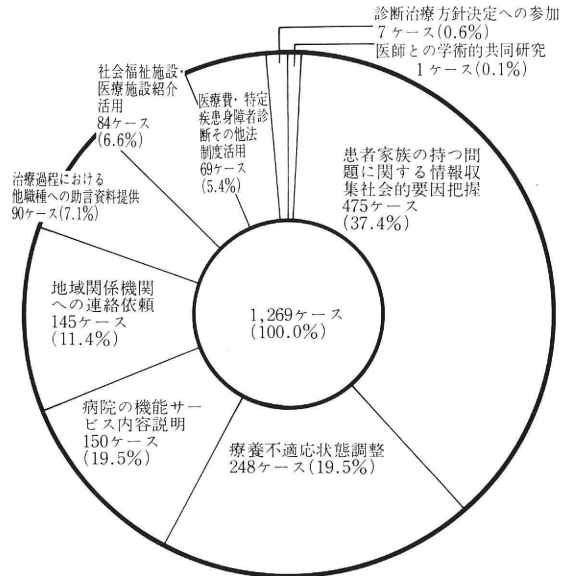
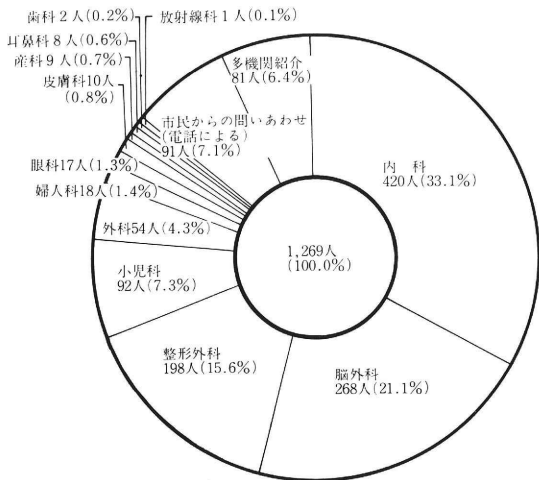
## はじめに

医療相談室の昨年1年間における業務状況の報告をまとめ、新病院にむけての、業務内容を検討すべく報告書を作成いたします。

## 患者に対する相談援助

図1にみられる如く、相談援助は各科にわたっている。

昨年の傾向として、電話による直接市民の相談がめだつ。また、患者家族自身相談室を訪ねる傾向も出てきた。院内からの紹介は主治医が多く、次にナースとなっているが、問題が発生し困難な状態になってからの連絡が多く、その点、当室の努力不足と反省し今後相談室の機能をよく院内職員に理解してもらい、早期援助を開始すべくシステムの確立が望まれる。



(退院時ひきとり手がない、退院時入院以来医療費が支払れていない、これでは遅すぎる。)

方法としては、

- ① 入院時のチェック体制(早期援助開始)
- ② 病棟カンファランス参加
- ③ その他

後述の症例は、ほんの一例であるが、早期に主治医から依頼のあったもので概ね経済的、心理社会的問題の援助の出来た事例である。今後、老人患者の増大と神経科新設によって相談室の業務は増大すると予測される。神経科においてはC.M.Iとか、Y.G判定も業務内容に入る可能性もある。また当院が急性期患者のケヤーを責務とするなら次のラウンドへの対応として、リハビリ施設、その他関係各機関とのコンタクトもますます必要となろう。

これらの要件を充足するためには、相談室の機

## 援助内容

科	患者	問題	ソーシャルケースワーカーの援助・結果
内科	急性肝炎の30歳の家庭の主婦。 ○入院 S54. 4.7 依頼 S54. 4.7	○入院のすすめで疾病に対する不安。 ○緊急入院, 幼児2人の面倒をみる人がいない。	○主治医によく病状を説明してもらい, 夫とともに正しい病識を得。 ○幼児は児童相談所の配慮で即時, キリスト教乳児院入所。(その時, 小児科の協力で入所健康診断スムーズに出来る。) ○無事退院す。S. 54. 5.17
内科	再生不良性貧血の14歳少女。(中学3年生) ○入院 S. 54. 5.15 依頼 S54. 5.15	○難病と知った両親の悲歎, 途方にくれている。 ○患者の入院生活の保障。	○テニスの選手で中体連目前に倒れた。両親の疾病状況受容への援助。(医師との協力で) ○特定疾患申請の援助。(医療費公費) ○病棟訪問, 患者と母親の話し合い手。 ○大病院転院 S54. 8.11
外科	一人暮らし, 癌疾患後不良の老女 ○入院 S54. 10.31 依頼 S54. 10.31	○親類関係疎遠な一人暮らし。 ○入院医療費等経済的困。	○患者との関係をつくり出し, 社会状況把握。親類の協力を得る。 ○生活保護申請, 医療費の保障。 ○S55. 2.11 死亡。
脳外科	精神科から紹介の頭部外傷38歳の男子。記憶喪失。 ○入院 S54. 4.3 依頼 S54. 4.4	○社会的背景, まったく不明。所持金なし。	○警察の協力で家族との連絡がつき家族との関係をつくり出し, 患者の医療費, その他の協力を得る。(15年ぶりのこと) ○国民健康保険課, 市民課の格段の協力を得る。 ○無事家族とともに退院。S54. 4.21 後日就労したとの電話あり。
整形外科	愁訴の多い右大腿頸部骨折, 陳旧腰部圧迫骨折の72歳の男性。 ○入院 S54. 4.21 依頼 S54. 9.12	○過度に身体症状を訴え退院したたがらない。	○患者とのリレーションを持ち患者の心理社会的問題の受容につとめ退院に持ってゆく。 ○退院。S54. 10.21

科	患者	問 題	ソーシャルワーク援助・結果
産婦人科	33歳子連れ家出の女性。女兒出産 ○入院 S54. 3.27 依頼 S54. 3.31	○夫と別居中。男子一人(3才)をつれ年下の男性と同棲、出産。住民票、保険証なし。	○市民課の協力でT都より住民票移動可。出産届可。国民健康保険課の協力で国保資格取得。 ○産科であつかわっていた乳児、民主委員の協力で、無事退院。 ○母親 S54. 4.3 子供 S54. 6.13
小児科	9歳の小児ヒステリーの女兒。 ○入院 S54. 7.12 依頼 S54. 8.1	○てんかんの疑いで入院。諸検査異常なく、精神科受診、小児ヒステリーと判明す。 ○両親の困惑。 ○病棟での患児へのアプローチ。	○医師と協議し、国立小児センター外来の受診を決定。両親の子供への対応に対し助言、小児センター外来に付そう。 ○神奈川子ども病院ソーシャルワーカーより助言を得情報を医師に提供。 ○病棟ナースとカンファランスし、医療側の情報交換と統一的ケアを実施す。 ○退院後もなく登校す。S54. 9.14
眼科	80歳の白内障の単身老女。 ○入院 S54. 10.15 依頼 S54. 10.15	○まったく身よりなく、手術時の精神的不安除去の援助。	○近隣者の協力を得る。 ○ボランティアの学生の協力を得る。 ○術後の身体回復期間、市内H病院の協力を得、転院。S55. 1.7
皮膚科	離婚話しの出ている全身熱傷の39歳の女性。 ○入院 S53. 6.26 依頼 S53. 6.26	○家族関係。	○付添いの母親の話し合い手。 ○色々な施設の紹介。 ○夫に社会通念上のルールを説明。離婚は当事者間の問題でタッチは出来ないが、割がよくなり、離婚の件はその後の話し合いとし、S54. 12.29退院す。
耳鼻科	全啞の28歳の女性。 ○入院 S54. 12.4 依頼 S54. 12.4	○親の障害に対する考え方。	○幼児期より難聴。親のプライドで普通学校(義務教育)終了。患者は知的障害はないが、まったく読む、書く等の能力なく、医師と協議し、福祉事務所身体障害係の協力で訓練校に通うように援助。

能の強化と人材の確保が望まれる。

### 教育活動

- (1) 東北福祉大学学生に対する教育。  
講座名 医療社会事業
- (2) 仙台市立高等看護学院生に対する教育。  
講座名 社会福祉
- (3) 仙台市医師会高等看護学院生に対する教育。  
講座名 社会福祉
- (4) 東北大学医療技術短期大学部看護学科生に対する教育。  
講座名 総合看護の中での医療社会事業
- (5) 実習生の指導  
実習名 医療相談室実習  
仙台市立高等看護学院生 29名
- (6) 東北大学医学部新入生に対して。  
見学目的 救急医療の実態  
(患者家族の社会的背景について)  
東北大学医学部学生 9名

### 論文発表, その他

- (1) 地域保健医療における医療社会(福祉)事業の業務体系の確立に関する研究(大同生命厚生事業団医学研究による共同研究)
- (2) 日本医療福祉学会において「医療福祉の経済的基盤」にパネリスト発表 S 54.9.8 神戸
- (3) 医療社会事業の資格制度化  
昭和54年度全国大会 シンポジスト発表 S 54.5.25 札幌

- (4) 東北大学脳研岡先生レポートへの参考文献協力 S 54.11.
- (5) 高知県医療社会事業協会に講師  
テーマ 「遷延性意識障害者援助運動へのソーシャルワーカーのかかわり」 S 54.3.23 高知
- (6) 山形県高等看護学校教務主任研修会に講師  
テーマ 「看護教育における社会福祉導入の方法」 S 54.4.25 山形
- (7) 旭川市社会福祉問題研究会に講師  
テーマ 「パラメヂカルチームと福祉の専門性」 S 54.5.24 旭川
- (8) 宮城県下各病院長に対する「医療ソーシャルワーカーの実態調査」に調査項目企画 S 54.7.~10.(一次・二次)
- (9) 「病院」医学書院 1979年1月号  
「医療相談室」紹介の記事にレポート
- (10) 名古屋保健衛生大学脳神経外科教室の調査に対する参考文献協力 S 54.12.

日常業務に追われ、まとまった研究成果のなかった点を反省しておりますが研修病院をめざす当院にとって実習への協力は、多大な資料を与えてくれました。

### おわりに

一年間の報告書を作成し考察してみると計画性にとぼしく業務に追われている点がめだち今後の反省の資料にしたいと思います。

今後諸先生の御指導、御指摘をいただき当院に受診、受療する患者のサービスにつとめたく考えております。

(昭和55年3月12日 受理)